

埼玉県大学生合同登山大会・報告書

JMSCA 令和 8 年度加盟団体普及等事業費助成金事業



- 1 期日 令和8年9月19日(日)
- 2 場所 武甲山(西武秩父線横瀬駅から武甲山生川コースを武甲山山頂まで往復)
- 3 担当者 伊藤 正孝(SMSCA 理事・医科学委員長・登山普及委員)
- 4 参加者 大学生:防衛医科大学校山岳同好会 9 名、駒澤大学 WV 部 1 名、明治大学 WV 部 1 名、
国際医療福祉大学 1 名、東京医科大学 1 名 <学生13名>
講師:稲田 真(防衛医科大学校卒/国際山岳医/山岳医療サポート事務所)<講師 1 名>
協会:伊藤正孝医科学委員長、秋庭栄登山普及委員長、加藤富之会長 <協会 3 名>合計 17 名
- 5 目的 大学生を主とする県内及び近郊の若年層登山者への登山普及と遭難予防に資する。
 - 1 埼玉県内および近隣都県の大学生が埼玉の山に登りながら交流を深める。
 - 2 埼玉の山に登りながら楽しく安全登山と応急処置について学ぶ。

6 実施概要

埼玉県山岳・スポーツライミング協会(SMSCA)の登山普及委員会が医科学委員会と共同し、初の試みとして「埼玉県大学生合同登山大会」を 9 月 19 日(土)に武甲山で開催した。この企画は、大学間の交流を深めながら、登山における「安全登山」と「応急処置」について現場で実践的に学ぶ活動である。今回はメイン講師として、国際山岳医であり YouTuber としても活躍されている稲田真氏を招聘。医科学的な視点から、山で本当に使える適切な助言をいただきながら進行的な。

8 時 30 分、西武秩父線横瀬駅に参加者が集合。タクシーと自家用車で武甲山生川登山口に移動した。8 時 50 分、各自登山支度を整えたのち円形に再集合し、簡単な開会行事を行った。本日の目的と全体の流れについて伊藤氏が説明した後、早速稲田講師から本日の課題について案内があった。参加者紹介とパーティ編成の発表、出発前の準備等確認を経て、パーティごとに準備運動を行い、9 時 15 分に武甲山山頂に向けて出発した。

登山中は、各チェックポイントで稲田講師が設定した 9 つのクイズ(課題)に、パーティの仲間と考えを出し合いながら挑戦した。

【出題された 9 つの課題】

- ① 傷病者を発見したら ② 現在地の伝え方 ③ 心肺停止、どうする？ ④⑤ 熱中症への対応
- ⑥ 自分の体の変化を知るには ⑦ 水分補給の方法 ⑧ 友人が転倒、どう対応する？
- ⑨ 持っている装備だけで前腕を固定するには……

ただ知識を学ぶだけでなく、「現場で使える技術」を体感するため、最後の課題である⑨では、実際に身の回りの装備を使って前腕を固定し、そのままの状態です武甲山山頂まで登るワークを行った。11 時 35 分、山頂近くに全員

が集合したところで、稲田講師による丁寧な解説と答え合わせが行われた。

解説では、「下界では通常 6～8 分で救急車が到着するが山ではそうはいかないこと」「もし心肺停止した登山者がいたら、心肺蘇生は 30 分で結果が出てしまうこと」など、厳しい山岳環境ならではの現実が語られた。その中で、一連の課題を通じて全員が体感した重要なキーワードが、要救護者への接し方・考え方である「安全かつ快適に」というポイントだった。実際に不自由な状態で登ってみることで、机上論ではないファーストエイドの大切さが学生たちの心に深く刻まれた。

解説が終わったところで、先発隊が準備した温かいなめこ汁を全員でいただき、少し遅い昼食をとった。下山前に武甲山頂上を往復して記念撮影を行い、13 時に下山を開始。下山中に課題はなかったが、学生たちは他大学との交流をさらに深めていた。

14 時 10 分、登山口に再集合して本日の活動の振り返りと感想発表を行った。参加学生からは、「いつもの部員との山行ではなく、他大学の部員と一緒に登山するのは新鮮で大変面白かった。このような機会がもっとあると良い」との感想があり、今後の活動への大きな期待が寄せられた。

最後に、熱中症対策の一環としてスポーツドリンク(OS-1、アクエリアス、ポカリスエット)の飲み比べを行い、それぞれの特徴を学びながら解散となった。

